

総務委員会資料

教育委員会
令和5年5月23日

1 主要施策の概要及び課題について【別冊資料】

2 令和6年度 国の施策及び予算編成等に係る重点要望について【全協資料】

3 報告事項

- (1) 5類感染症移行後の新型コロナウイルス感染症への対応について …… P 1
- (2) 教員不足の状況と対策について …… P 2
- (3) 県立高校のスクール・ミッションについて …… P 5
- (4) 令和5年3月高等学校卒業者の進路状況について …… P 16
- (5) 公立高等学校における県外入学者数の推移について …… P 18
- (6) 令和5年3月特別支援学校高等部卒業者の進路状況について …… P 19

5類感染症移行後の新型コロナウイルス感染症への対応について

1 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行

- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、文部科学省は「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を改訂（令和5年4月28日付）
- ・ 県立学校においては、当該マニュアルに基づいた対応を基本とするよう、各学校長に対して通知（令和5年4月28日付）
- ・ 市町村教育委員会に情報提供したほか、総務部を通じて私立学校、政策企画局を通じて国立学校等に情報提供

2 5類感染症移行後の県立学校における対応の概要

(1) 平時から求められる感染症対策

- ① 児童生徒の健康観察
 - ・ 発熱や咽頭痛、咳等の症状がある場合には、自宅で休養するよう呼び掛け
 - ・ 健康状態の把握は継続しつつ、体温を毎日チェックさせ、学校に提出させるような取組は不要
- ② 換気の確保
 - ・ 可能な限り常時（困難な場合にはこまめに）、2方向の窓を同時に開けて換気
- ③ 手洗い等の手指衛生の指導
 - ・ 外から教室に入る時や給食の前後など、流水と石けんでの手洗いを指導
- ④ 清掃・消毒
 - ・ 清掃により清潔な空間を保ち、手洗いを徹底
 - ・ 清掃活動とは別に日常的な消毒活動を行うことは不要
- ⑤ その他
 - ・ マスクについては、着用を求めないことが基本
 - ・ 特別支援学校については、学校医、主治医の意見も参考に、状況に応じて対応

(2) 感染流行時等に一時的に検討することが考えられる感染症対策

- ① マスク
 - ・ 感染流行時等には、児童生徒に着用を促すことも考えられる（その場合にも、着用を強いることはしない）
- ② 活動の場面ごとの感染症対策
 - ・ 「近距離」「対面」「大声」での発声や会話を控える
 - ・ 児童生徒等の間に触れ合わない程度の身体的距離を確保
- ③ その他
 - ・ 特別支援学校については、学校医、主治医の意見も参考に、状況に応じて対応

教員不足の状況と対策について

1 公立学校における欠員状況

- (1) 令和5年4月1日現在の欠員は、全体で37人（令和4年4月1日：32人）。
- (2) 学級担任に欠員はない（小・中・高・特支）。
- (3) 学校単位で教員不在教科はない（中・高・特支）。

令和5年4月1日現在[速報値]、（ ）は令和4年4月1日の数値

	1年期限付き任用	1年未満の短期任用 (産休・育休代替等)	計	【参考】 教員総数
小学校	9人 (8人)	5人 (8人)	14人 (16人)	3,024
中学校	9人 (6人)	4人 (2人)	13人 (8人)	1,792
高等学校	6人 (1人)	1人 (7人)	7人 (8人)	1,543
特別支援学校	2人 (0人)	1人 (0人)	3人 (0人)	920
計	26人 (15人)	11人 (17人)	37人 (32人)	7,279

(注) 教員総数には、県単独の加配を含む。

小学校の短期任用欄「5人」及び「(8人)」の他、それぞれ学校栄養職員1人不足

2 教員不足の要因・背景

近年の大量退職や特別支援学級の増加、学校の抱える課題の複雑化・困難化を背景とした手厚い教員配置（県単独事業を含む。）などにより、毎年、多数の教員確保を行う必要がある一方で、県内人口の減少、教員志望者の減少等により、必要数に見合った教員のなり手を確保できない状況が続いている。

教員志望者減少の背景には、時間外勤務や保護者対応等を含めた勤務環境への懸念・不安等も存在していると考えられることから、教員不足を解消するためには、教員確保に向けた直接的な取組と働き方改革及び教職員へのサポート強化を車の両輪として進めていく必要がある。

【参考】関連データ

	必要教員の主な変動要因			退職・採用・再任用				
	増要因		減要因	④ 退職者 (辞職者含)	新規採用者			⑧ 再任用者 (名簿登載者)
	① 特別支援 学級数 (対象児童 生徒数)	② 少人数学級編 制の県単加配 (課題解決・制 度改正加配含)	③ 児童生徒数		⑤ 採用者 (名簿登載者)	採用試験(前年度実施)の状況		
				⑥ 受験者数	⑦ 倍率 (名簿登載者)			
H13	367 (609)	0	93,019	206	121 (129)	1,568	13.0 (12.2)	0
H23	492 (1,059)	57	75,006	188	164 (165)	1,245	7.6 (7.5)	24 (26)
H24	499 (1,069)	43	73,348	235	159 (167)	1,220	7.7 (7.3)	23 (23)
H25	511 (1,097)	48	72,363	235	156 (166)	1,218	7.8 (7.3)	31 (41)
H26	504 (1,129)	98	71,379	263	164 (167)	1,152	7.0 (6.9)	44 (54)
H27	524 (1,184)	127	70,335	259	226 (233)	1,180	5.2 (5.1)	50 (52)
H28	537 (1,272)	175	69,697	294	225 (230)	1,251	5.6 (5.4)	81 (86)
H29	534 (1,306)	179	68,858	290	209 (216)	1,204	5.8 (5.6)	133 (141)
H30	554 (1,468)	193	68,156	303	216 (216)	1,184	5.5 (5.5)	168 (198)
R1	578 (1,527)	198	67,565	304	245 (264)	1,142	4.7 (4.3)	203 (242)
R2	614 (1,672)	179	67,031	316	265 (278)	998	3.8 (3.6)	271 (300)
R3	617 (1,783)	148	66,409	363	260 (284)	1,042	4.0 (3.7)	307 (339)
R4	638 (1,899)	138	65,939	320	280 (302)	906	3.2 (3.0)	379 (406)
R5	5/1現在の数は調査中、6月頃に判明。			未定	271 (294)	891	3.3 (3.0)	406 (451)

※ ①～③は5月1日現在、④は年度末現在、⑤⑧は4月1日現在の数値

(参考) 少人数学級編制の変遷

H15 : 小1 30人学級導入

H16 : 小2 30人学級導入

H26 : 小3・小4・中1 35人学級導入

H27 : 小5・中2 35人学級導入

H28 : 小6・中3 35人学級導入

R3 : 小2 32人学級、中3 38人学級に変更、国学級編制基準変更 : 小2 35人

R4 : 中2 38人学級に変更、国学級編制基準変更 : 小3 35人

R5 : 国学級編制基準変更 : 小4 35人

3 教員確保に向けた取組

(1) 常勤教員の未配置が生じている学校現場の負担軽減

- ① 「緊急対応非常勤講師」の勤務時間増（875時間⇒最大1,095時間）・業務内容の柔軟化（授業だけでなく校務も実施可能）【R5 新規】
- ② 「緊急校務支援員」（教員免許なし）の配置（県10/10）【R4～】
- ③ 各種制度・事業等の運用緩和（主幹教諭の授業時間数（週10時間程度）の上限撤廃、加配関係書類の簡素化・省略化など）【R4～】 など

(2) 年度途中での人材確保

- ① 定年退職者等への再度の働きかけ（退職校長園長会とも連携）
- ② 募集広報等の強化
- ③ 5月実施の特別選考試験合格者の年度内採用 など

(3) 次年度当初の欠員ゼロに向けた対応（主なもの）

- ① 再任用等の促進
- ② 教員採用試験の見直し（U・Iターン、新卒者、他業種からの転職など）
※特に「特別選考試験」【R4～】、「島根創生特別枠」【R5～】など
- ③ 教員志望者の裾野拡大（高校生・大学生へのアプローチ）
- ④ 募集広報・教職の魅力発信強化
- ⑤ 相談・サポート体制強化（新規採用者等の定着促進、離職防止）
- ⑥ 教員籍の行政等勤務者（指導主事・社会教育主事等）の配置合理化
人員削減：令和5年度は6人減。6年度は15～20人程度減
再任用職員配置：令和5年度10人増の34人。6年度は35人～40人程度
- ⑦ 処遇改善や奨学金返還免除制度の検討（県独自制度の検討+国への要望） など

県立高校のスクール・ミッションについて

国による高等学校教育改革において各高等学校に期待される社会的役割等（以下「スクール・ミッション」という。）の再定義が設置者に求められた。

このことを受け、県立高校のスクール・ミッションを以下のとおりとした。

【補足】スクール・ミッションとは（令和3年3月31日 文部科学省通知より）

- ・ 各高等学校に期待される社会的役割等
 - ・ 高等学校の設置者が再定義
 - ・ 策定に当たっては各学校運営協議会等と連携
 - ・ 再定義の時期は各設置者が適切に判断
- ※1 スクール・ミッションを基盤に、各高校は地域と協働して、目指す学校像や育てたい生徒像などの学校運営の基本方針をグランドデザインとして策定し、これに沿って特色ある教育活動を推進
- ※2 設置者が定めるスクール・ミッションと各高校のグランドデザインは、策定期間の前後を問わない。

1 策定におけるポイント

- (1) 次の類型に基づいて高校ごとに再定義
 - ① 普通科高校（普通科系総合学科高校を含む）
 - ・ 中山間地域・離島の高校（郡部の高校及び分校）
 - ・ 市部の高校
 - ② 専門高校（専門科系総合学科高校を含む）
 - ③ 定時制・通信制高校
- (2) 各高校の自主性と創意工夫による学校運営を踏まえ、設置者としての基本的な方針を明記
- (3) 中学生、保護者及び地域に向けた分かりやすい簡潔な表現

2 内容

別紙のとおり

3 これまでの経過

令和3年12月～	策定作業開始
令和4年9月～	各高校及び学校運営協議会等に対し、原案説明・意見聴取
令和5年3月	各高校及び学校運営協議会等に対し、最終案を提示 教育委員会会議において議決

県立高校のスクール・ミッションとグランドデザインの関係

島根県教育委員会が定める

「スクール・ミッション」

—各高等学校に期待される社会的役割等—

設置者として、それぞれの高校に期待される社会的役割や使命等について再定義



スクール・ミッションを基盤として具体化

各高等学校が定める

「グランドデザイン」

—学校運営の基本方針—

育てたい生徒像、目指す学校像、求める生徒像などの学校運営基本方針を明確にし、生徒、保護者及び地域に広く公表

スクール・ポリシー

—高等学校における「三つの方針」—

- ・ 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- ・ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

県立高校のスクール・ミッションと
具体的取組の方向性

令和5年3月
島根県教育委員会

県立高校のスクール・ミッションと具体的取組の方向性

- スクール・ミッションとは、各高校に期待される社会的役割等のことです。
- 島根県教育委員会は、各高校のこれまでの取組を更に推進し、県立高校がしまねの子どもたちにとって、より魅力ある学校へと発展していくよう、次のようにスクール・ミッションを定めました。
- スクール・ミッションを基盤として、各高校は地域と協働して、目指す学校像や育てたい生徒像などを、学校運営の基本方針であるグランドデザインとして策定し、これに沿って、特色ある教育活動を更に推進していきます。

1 普通科高校（普通科系総合学科高校含む）

(1) 中山間地域・離島の高校（郡部の高校及び分校）

スクール・ミッション	
<p>中山間地域・離島の生徒の学びを支える高校として、地域との多様な関わりの中で、島根らしいきめ細かな学びを推進し、地域コミュニティーや文化的拠点としての役割を果たしつつ、課題解決能力を身に付けた地域や社会の担い手を育成する</p>	
横田高校	<p>コース制による学びによって生徒の多様なニーズに応えるとともに、地域資源を生かした課題解決型学習等を通して、地域への愛着と誇りを持ち、地域や社会の未来をけん引することができる人材を育成する</p>
三刀屋高校 掛合分校	<p>きめ細かな指導・支援とわかりやすい授業によって学力を育むとともに、地域をフィールドとした探究学習や、多様な人々との交流を通して、自立心を高め、地域や社会へ貢献する意欲をもった人材を育成する</p>
飯南高校	<p>多様性豊かな環境の中で、保・小・中との連携や生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな指導・支援を通して、地域資源を生かした教育活動によって主体性を育み、活力ある地域や社会に貢献することができる人材を育成する</p>
島根中央高校	<p>コース制・総合選択制による多彩な科目選択と、地域と連携した課題解決型学習等を通して、多様な地域から集った生徒が様々な人々と学び合い、ともに地域や社会を創造し自己実現することができる人材を育成する</p>
矢上高校	<p>普通科と農業系専門学科による幅広い学びや地域での活動を通して、確かな知識・技能を提供するとともに、地域の産業や文化に関心を持ち、多様な分野でチャレンジし、地域や社会の発展に貢献することができる人材を育成する</p>
吉賀高校	<p>少人数指導によるきめ細かな学びを提供するとともに、地域の保・小・中学校や関係団体と連携した課題解決型学習等を通して、地域や社会の未来を支えることができる人材を育成する</p>
津和野高校	<p>コース制や少人数指導によるきめ細かな学習支援と、県外出身の生徒や地域の様々な人々との関わりを通して、広い視野とコミュニケーション力をもった、地域や社会に貢献することができる人材を育成する</p>
隠岐高校	<p>普通科と商業科による幅広い学びを提供するとともに、隠岐ユネスコ世界ジオパークを活用した課題解決型学習等を通して、地域や社会の課題解決と発展を担うことができる人材を育成する</p>
隠岐島前高校	<p>豊かな地域資源と人材の中で、地域と共に取り組む課題解決型学習等や、島外や県外出身者など校内外の様々な人々との交流を通して、広い視野をもった、地域や社会の未来を担うことができるグローバル人材を育成する</p>

(2) 市部の高校

スクール・ミッション	
生徒の興味・関心、学習ニーズに応じた学びを提供するとともに、生徒一人一人へのきめ細かな学習支援と、地域や大学、企業等と連携した課題解決型学習等を推進し、大学進学をはじめとする多様な進路希望を実現することで、地域や島根県、日本を支える人材を育成する	
安来高校	確かな学力と主体的な学習意欲を育むとともに、地域と連携した課題解決型学習等を通して、大学等への進学や地元地域への就職など多様な進路希望の実現を支援し、地域への愛着を持ったよりよい社会の創り手を育成する
松江北高校	高度な学びに向かう知的好奇心・探究心を高める教育活動を行い、大学等への進学をはじめとする進路希望の実現を力強く支援することを通して、地域社会や日本、国際社会で活躍することができる人材を育成する
松江南高校	SSHプログラムを生かした探究的な学びや、進路希望に応じて主体的に科目選択ができる単位制による学びを通して、グローバル社会の持続可能な発展に貢献することができる人材を育成する
松江東高校	地域の大学や企業等と連携した深い学びや、進路希望に応じて主体的に科目選択ができる単位制による学びを通して、持続可能な地域社会の創造をけん引することができる人材を育成する
大東高校	多様な進路希望に対応したきめ細かな学習支援と、地域社会に開かれた教育活動を通して、主体的に学ぶ姿勢を持ち、知識・技能を協働的に活用して自らと地域や社会の未来を切り拓くことができる心豊かな人材を育成する
三刀屋高校	総合学科の特長を生かした多様な進路希望に対応したカリキュラムやキャリア教育と、地域と連携・協働した探究学習を通して、確かな学力と社会貢献力を持った未来を創造することができる人材を育成する
平田高校	地域との強い連携による課題解決型学習等をはじめとする探究的な学びと、進路希望に応じたきめ細かな学習支援を通して、新しい時代の地域や社会を切り拓き、主体的に地域や社会と向き合うことができる人材を育成する
出雲高校	SSH事業での取組の成果を生かした探究的な学習や協働的な活動を通して、確かな根拠に基づく高度な科学的思考力を伸ばし、新しい時代の社会のイノベーションをけん引することができる人材を育成する
大社高校	探究的な学びとスポーツに関する専門的な学びを通して、挑戦し続ける力や協働する力、ふるさとへの誇りを持った、スポーツ界をはじめ多様な舞台においてグローバルな視点で地域の発展を支えることができる人材を育成する
大田高校	確かな学力を育むことで、大学等への進学をはじめとする多様な進路希望に対応するとともに、地域と連携した課題解決型学習等を通して、地域や社会の未来を切り拓くことができる人材を育成する
江津高校	多様な進路希望に対応したきめ細かな学びと、地域と連携した課題解決型学習等を通して、地域や社会に貢献するために挑戦し、未来を変えていく力をもった人材を育成する
浜田高校	大学や地域と連携した学習や探究活動を行い、大学等への進学をはじめとする進路希望の実現を力強く支援することを通して、地域社会や日本、国際社会の発展や課題解決に貢献する人材を育成する
益田高校	地域や大学、研究機関との連携による先端的・探究的な学びや、進路希望の実現に向けて主体的に科目選択ができる単位制による学びを通して、地域や国の未来を切り拓くことができる人材を育成する

具体的取組の方向性

<中山間地域・離島の高校>

① 地域の通学可能な高校として現状の学校配置を維持

各校の魅力化・特色化を更に推進することで、基本的には地域の通学可能な高校として維持し、地元地域の中学校卒業生等の進路保障を図るとともに、地域コミュニティの拠点としての役割の維持・発展に取り組む。

今後の少子化や過疎化が懸念される状況を踏まえ、将来を見通した学校・学科の在り方については、中学校卒業生数や志願者数、入学者数の状況等を注視しつつ、魅力化・特色化の取組の成果等を踏まえながら、中長期的な視点で引き続き研究していく。

② 多様な学びの保障

社会や時代の変化、生徒の多様なニーズに応じた多様で先端的な学びを保障する観点から、単位制の導入やコースの見直しを行うとともに、ICT活用等による県内外の大学や他の県立高校等との連携を更に推進する。

<市部の高校>

① 各校の特色化・魅力化の更なる推進

島根県や地域の拠点を担う普通科高校として、各校の特色化・魅力化を推進し、生徒のニーズや社会の変化に応じた多様な学びを保障する観点から、魅力ある学科の配置や単位制の導入、特色ある教育課程編成に基づくコース制の導入等に取り組む。

② 今後の学校・学科の在り方

各地域の中学校卒業生数や志願者数、入学者数の状況等を注視しつつ、通学に関わる公共交通網の実態や魅力化・特色化の取組の成果等を踏まえながら、地域の望ましい教育環境を維持する観点から、今後の少子化や過疎化が懸念される状況を踏まえ研究していく。

③ 地域外入学制限の緩和

松江北高校・松江南高校・松江東高校・出雲高校における普通科の地域外入学制限については、松江・出雲の両地域の教育の機会保障や周辺地域等への影響を考慮した上で、緩和に向けて見直しを行う。

<県外からの生徒の受入方針>

県外からの生徒の受入れについては、県内生・県外生の双方に質の高い教育を提供するという目的と、各校の体制や地域の住まい確保の実情に鑑み、県内生と県外生のバランスに配慮しながら取り組んでいく。

2 専門高校（専門科系総合学科高校含む）

スクール・ミッション	
<p>知識・技能の確実な定着を図るとともに、大学や企業等と連携した先端的・実践的な学びと、社会の変化に対応した高度な専門的知識・技能の習得を推進し、地域社会や島根県、日本の産業界を支える職業人材を育成する</p>	
工業に関する学科を設置する高校	
<p>松江工業高校 出雲工業高校 江津工業高校 益田翔陽高校</p>	<p>地元企業等との連携による取組の成果を生かし、社会の変化や地域の産業界からのニーズに応えるものづくり教育を通して、地域産業等を担うことができる専門性豊かな工業人材を育成する</p>
商業に関する学科を設置する高校	
<p>情報科学高校 松江商業高校 出雲商業高校 浜田商業高校 〔再掲〕 隠岐高校</p>	<p>最先端の専門知識・ビジネススキルの習得や資格取得に取り組むとともに、地元企業や経済団体等と連携した活動を通して、新しい時代の幅広い分野の地域産業等を担うことができるビジネス・IT人材を育成する</p>
農業に関する学科を設置する高校	
<p>松江農林高校 出雲農林高校 〔再掲〕 矢上高校 益田翔陽高校</p>	<p>新しい時代の農業に関する専門的・実践的な教育と、生徒の興味・関心に応じた幅広い領域の学びを通して、農業関連産業をはじめ、多様な分野で地域や社会に貢献することができる人材を育成する</p>
水産に関する学科を設置する高校	
<p>浜田水産高校 隠岐水産高校</p>	<p>豊かな海洋環境と大型練習船「神海丸」等の充実した施設・設備による実習や地域との連携を通して、船舶運航・水産加工業・栽培漁業等をはじめ、資格を生かした地域を支える多様な分野で活躍することができる人材を育成する</p>
専門科系総合学科を設置する高校	
<p>邇摩高校 〔再掲〕 松江農林高校 益田翔陽高校</p>	<p>総合学科の特長を生かして、職業に直結した専門性を育成するとともに、生徒の興味・関心に応じた多彩な選択科目による学びを通して、幅広い知識・技能をもった将来の地域産業等を担う人材を育成する</p>

具体的取組の方向性

① 多様な進路保障の実現

生徒の多様な進路希望を保障する観点から、大学等への進学を希望する生徒のニーズにも対応することができる教育課程の改善や、コース制の導入など指導体制の充実に取り組む。

② 情報発信及び生徒募集の充実

中学生等にわかりやすく、魅力が十分に伝わるように、情報発信の充実に取り組むとともに、生徒の適性や進路希望により対応できるよう、くくり募集など募集方法の工夫に取り組む。

③ 施設・設備の充実と活用

最先端の専門的科学技术教育に必要な施設・設備や、地域産業に応じた実践的な施設・設備の整備及び有効な活用について、各校の取組やニーズに対応していく。

④ 今後の学校・学科の在り方

志願者数、入学者数の状況等を注視しつつ、魅力化・特色化の取組の成果や産業界のニーズ等を踏まえ、学科間の領域を横断する学習や体験活動の充実など専門高校としての機能や強みが十分に発揮できるよう、望ましい学校・学科の配置について検討していく。

3 定時制・通信制高校

スクール・ミッション	
<p>生徒の興味関心、能力・適性や一人一人の成長の過程に寄り添うとともに、多様な学習形態へのニーズや生活スタイルに対応したきめ細かな学びを推進し、社会での自立に必要な一般的な教養や専門的な知識・技能を身に付けた地域や社会の担い手を育成する</p>	
普通科を設置する高校	
宍道高校 (定時制) (通信制)	生徒のニーズに合わせて柔軟に学習時間帯等を選択することができる学習形態と、一人一人の習熟度に応じた学びを通して、社会とつながり、主体的に学ぶ意欲を持った、地域や社会に貢献することができる人材を育成する
浜田高校 (定時制) (通信制)	
工業に関する学科を設置する高校	
松江工業高校 (定時制)	協働的な授業や主体的に他者と関わる課題研究と、一人一人の習熟度に応じたきめ細かな学びを通して、社会と関わる力と、ものづくりに必要な知識・技能を身に付けた地域や産業界に貢献することができる人材を育成する

具体的取組の方向性
<p>① 多様な学習ニーズに対応した学びの保障 多様な学習ニーズに対応し、生徒一人一人に応じた、わかりやすく、きめ細かな学びを提供するとともに、ICTを効果的に活用するなど、確かな知識・技能の定着を図る。</p>
<p>② 地域や社会を支える自立した人材の育成・輩出 学校での学びと社会や日常生活とのつながりを強化するとともに、地域への深い理解を育むことで、大学等への進学や地元企業への就職等を通じて地域や社会を支える人材の育成・輩出を推進する。</p>
<p>③ 今後の学校・学科の在り方 志願者数、入学者数の状況等を注視しつつ、生徒の多様な学習ニーズを踏まえながら、中長期的な視点に立って研究していく。</p>

【参考】

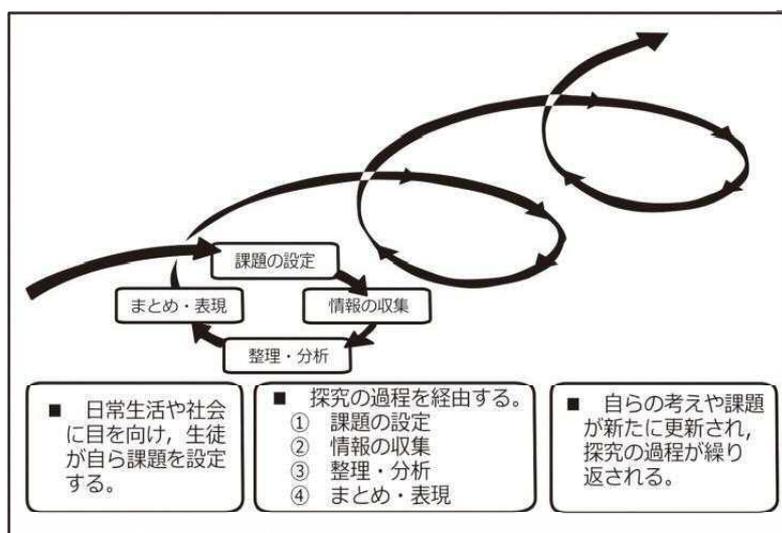
課題解決型学習 (Project Based Learning)

自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした学習法。文部科学省が定義するアクティブラーニング (=学習者の能動的な参加を取り入れた授業、学習法) のひとつ。

探究的な学習

身に付けた知識・技能を活用し、自ら課題を発見する力、他者と協働しながら主体的に課題解決を図ろうとする力、定まった答えのない課題に対しても最善解を導き新たな価値を創造していく力などの育成を目指す学び。

<イメージ>



学習指導要領 (平成 30 年公示) 解説「総合的な探究の時間編」より抜粋

単位制

学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度。文部省令改正により、昭和 63 年度から定時制・通信制課程において導入され、平成 5 年度からは全日制においても設置可能となった。

SSH (スーパーサイエンスハイスクール)

文部科学省が指定する、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指して先進的な理数教育を実施する高等学校。

くくり募集 (一括募集)

複数の学科をひとくくりにして募集し選抜する募集方法。1 年次は共通のカリキュラムを履修し、2 年次以降に学科別のカリキュラムに取り組む。

グローバル

グローバル (Global 地球規模の、世界規模の) とローカル (Local 地方の、地域的な) を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する (Think globally, act locally)」という考え方。

令和5年3月高等学校卒業者の進路状況について
(県立・市立・私立の全日制、定時制高校)

1. 進路状況の年度別推移

各年度3月の数値

年度	卒業 者数	進学		就職	就職		進学 就職計			未定
		県内	県外		県内	県外	県内	県外		
R2	5,837人	4,255人 (72.9%)	1,341人 2,914人	1,246人 (21.3%)	975人 271人	5,501人	2,316人 3,185人	280人 進学263人 就職17人		
			31.5% 68.5%		78.3% 21.7%		42.1% 57.9%			
R3	5,570人	4,127人 (74.1%)	1,273人 2,854人	1,138人 (20.4%)	893人 245人	5,265人	2,166人 3,099人	268人 進学254人 就職14人		
			30.8% 69.2%		78.5% 21.5%		41.1% 58.9%			
R4	5,516人	4,137人 (75.0%)	1,338人 2,799人	1,102人 (20.0%)	869人 233人	5,239人	2,207人 3,032人	238人 進学219人 就職19人		
			32.3% 67.7%		78.9% 21.1%		42.1% 57.9%			

※諸事情による未定者は除く

2. 進学の状況

令和5年3月の数値 (()は令和4年3月の数値)

進学区分		人数			割合		
		県内	県外	合計	県内	県外	全体
四年制大学	国公立	512 (437)	596 (566)	1,108 (1,003)	46.2% (43.6%)	53.8% (56.4%)	26.8% (24.3%)
	私立		1,365 (1,484)	1,365 (1,484)		100% (100.0%)	33.0% (35.9%)
	計	512 (437)	1,961 (2,050)	2,473 (2,487)	20.7% (17.6%)	79.3% (82.4%)	59.8% (60.2%)
短期大学	国公立	67 (64)	9 (8)	76 (72)	88.2% (88.9%)	11.8% (11.1%)	1.8% (1.7%)
	私立	43 (29)	141 (114)	184 (143)	23.4% (20.3%)	76.6% (79.7%)	4.5% (3.5%)
	計	110 (93)	150 (122)	260 (215)	42.3% (43.3%)	57.7% (56.7%)	6.3% (5.2%)
専修学校		619 (639)	665 (660)	1,284 (1,299)	48.2% (49.2%)	51.8% (50.8%)	31.0% (31.5%)
その他(高専編入・留学・公共職業能力開発施設)		97 (104)	23 (22)	120 (126)	80.8% (82.5%)	19.2% (17.5%)	2.9% (3.1%)
合計		1,338 (1,273)	2,799 (2,854)	4,137 (4,127)	32.3% (30.8%)	67.7% (69.2%)	100.0% (100.0%)

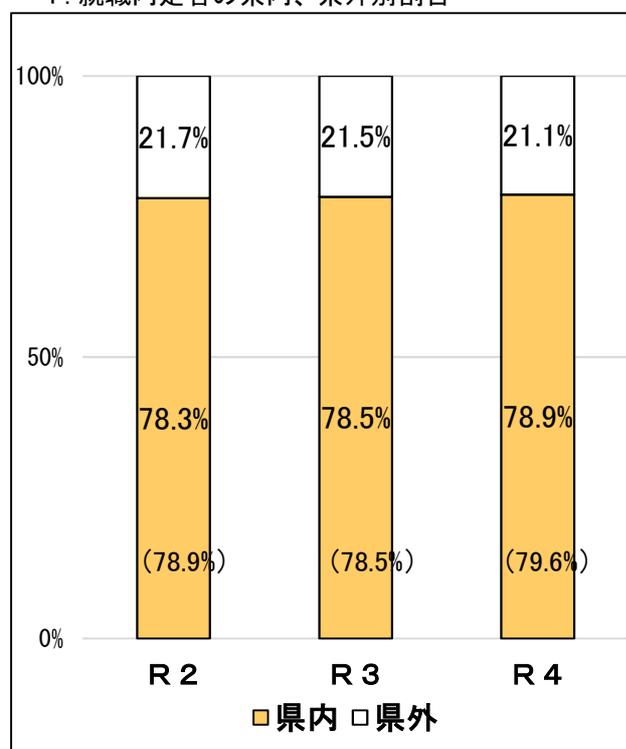
3. 就職の状況

各年度3月の数値

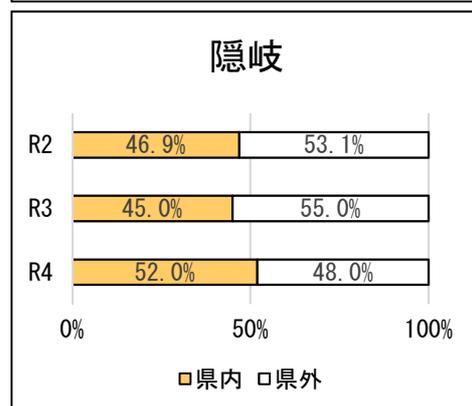
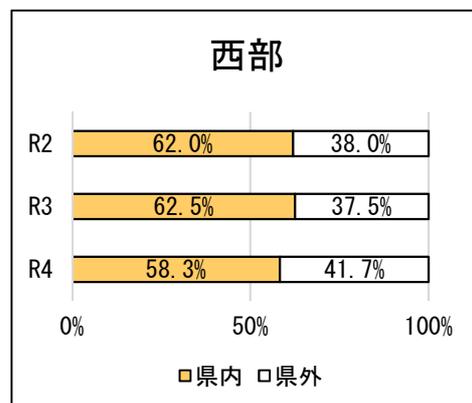
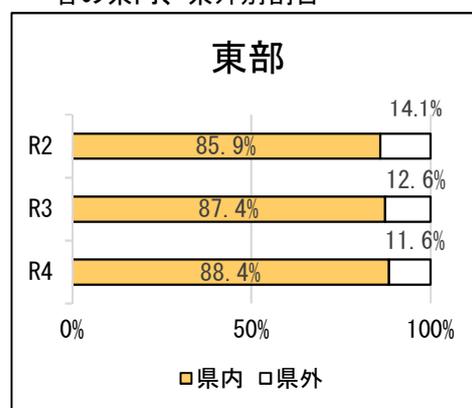
年度	卒業者数	就職希望者数(人)			就職希望者の割合	就職内定者数(人)			内定率	未内定者数(人)
		県内	県外	小計		県内	県外	小計		
R2	5,837	983	280	1,263	21.6%	975	271	1,246	98.7%	17
R3	5,570	903	249	1,152	20.7%	893	245	1,138	98.8%	14
R4	5,516	884	237	1,121	20.3%	869	233	1,102	98.3%	19

【参考】

1. 就職内定者の県内、県外別割合



2. 各地域に所在する高等学校の就職内定者の県内、県外別割合



〔県内就職の状況〕

1. 県全体

県内就職内定者の割合は、対前年度比で、令和3年度が0.2ポイントの増、令和4年度は0.4ポイントの増となり、増加傾向が続いている。

2. 地区別

県内就職内定者の割合は、令和4年度は、対前年度比で、東部地域は1.0ポイントの増、西部地域は4.2ポイントの減、隠岐地域は7.0ポイントの増となった。

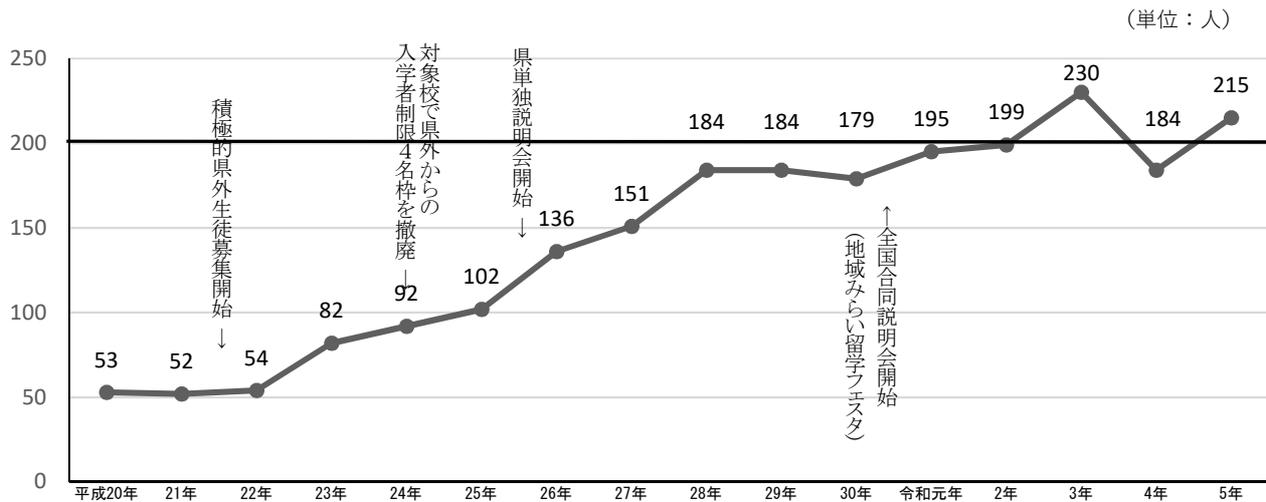
公立高等学校における県外入学者数の推移について

1. しまね留学

県外中学校からの入学者数の推移

- ・ 県外入学者数は前年度との比較で31人増加し、215人となった。
- ・ 主な増加要因としては、県内入学予定者数や寄宿舍等の収容状況を考慮しながら、一部のしまね留学推進校では県外中学生の入学者枠を増やすなど、推進校において県外生徒の募集を実施したことによる。

(参考) 定員に対する割合 津和野高校 30%→35%、横田高校 14%→18%



- ・ 県外入学生の主な出身地は、広島県、山口県、大阪府、鳥取県、兵庫県 (単位：人)

年度	北海道・東北	関東	東海・北陸	近畿	中国	四国	九州	国外	計
R 2	2	52	8	48	78	4	4	3	199
R 3	1	50	22	73	71	4	8	1	230
R 4	1	43	18	46	62	4	7	3	184
R 5	3	47	12	57	80	3	11	2	215

2. しまね高2留学

- ・ 内閣府が、地方の関係人口拡大を目的とした「地方と東京圏の大学生・高校生対流促進事業」を創設（令和3年度より4年間）
- ・ 令和5年度の留學生数は2人（令和4年度は9人）
大東高校1人、隠岐島前高校1人

3. 令和5年度の県外生徒募集の取組

(1) しまね留学推進校による説明会

- ・ 合同説明会の実施（5月）
- ・ 各校個別説明会を随時実施

(2) 地域みらい留学合同学校説明会へ参加

- ・ 県内13校を含む全国約100校が参加予定（6月～8月）
- ・ 東京都での対面合同説明会（2日間）に参加予定（9月）

(3) 島根県の高校をめぐるバスツアー

- ・ 8校での実施に向けて調整中（7、8月に3コースを計画）

令和5年3月 特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

(単位:人)

年度	卒業 者数	進学			職業訓練	就職	障害福祉サービス等						障害児 施設	入院	未定
		特別支援 学校専攻 科	大学・短大	各種学校 (専門学校 等)	高等技術 校他	企業等	就労継続 A型	就労継続 B型	就労移行 支援	自立訓練 (機能訓練・ 生活訓練)	生活介護	その他			
H29	186	0	1	3	3	69	20	47	7	2	19	4	3	1	7
		4			3	69	99						3	1	7
	割合	2.2%			1.6%	37.1%	53.2%						1.6%	0.5%	3.8%
H30	180	1	2	3	9	66	10	45	5	8	19	1	4	3	4
		6			9	66	88						4	3	4
	割合	3.3%			5.0%	36.7%	48.9%						2.2%	1.7%	2.2%
R1	211	1	2	3	5	80	9	54	8	2	34	2	2	3	6
		6			5	80	109						2	3	6
	割合	2.8%			2.4%	37.9%	51.7%						0.9%	1.4%	2.8%
R2	181	0	2	0	5	65	4	49	5	2	28	1	0	1	19
		2			5	65	89						0	1	19
	割合	1.1%			2.8%	35.9%	49.2%						0.0%	0.6%	10.5%
R3	179	0	0	5	2	59	7	51	4	1	35	5	2	2	6
		5			2	59	103						2	2	6
	割合	2.8%			1.1%	33.0%	57.5%						1.1%	1.1%	3.4%
R4	192	0	0	4	4	71	5	59	2	1	35	3	2	0	6
		4			4	71	105						2	0	6
	割合	2.1%			2.1%	37.0%	54.7%						1.0%	0.0%	3.1%